

建築家の設計論における参照としての空間体験描写

Description of Spatial Experience as Reference in Architects' Design Theories

奥山研究室 19M50440 花田 昌 (HANADA, Aki)

1. 序 建築や都市空間を実際に体験することは、書物よりも自らの身体を使って学ぶことが重要であると安藤忠雄が述べているように、実空間の有様を本質的に理解する上で重要であり、そこで得られた心象は、空間を構想する建築家にとって創作の源泉になることがある。建築家の設計論においても、自身の空間体験を設計における参照として提示するものがみられ、ここでは著名な建築や遺跡、都市の街路や広場といった様々な空間において建築家が体感した、人々の振舞、移動や時間とともに変化する風景などが描写され、それを設計へと展開させる建築家の思考が読み取れる。そこで本研究では、建築家の設計論において参照される空間体験描写を資料¹⁾とし、その意味内容を検討することで、実体験と創作をめぐる建築家の思考を明らかにすることを目的とする。

2. 空間体験描写の体験範囲と描写形式

2-1. 参照空間と体験空間 資料とした空間体験描写からは、図1の分析例(No.10)のように、「奈良井の集落」と「郷原の集落」でそれぞれ一連の体験談として描かれる描写(以下、シーン)と、その中に登場する空間(以下、体験空間)を読み取ることができ、さらに体験空間からはシーンごとに、建築家が特に注目し、設計に参照した内容を見出すことのできる空間(以下、参照空間)を抽出することができる。

資料にはラ・トゥーレット修道院などの建築作品から、幼少期に訪れた野山まで、様々な空間での体験が示されていたため、体験空間の種類を《建築》、《都市》、《自然》から捉え、さらに《建築》は固有名を伴って示される著名な建築と固有名を伴わない匿名の建築(以下、〈著名〉、〈匿名〉)に分類し、参照空間の内訳を図2に示した。ここでは参照空間の地域と、訪れた時期が建築を学ぶ以前である{幼少期}、生活圏内のものや、複数回訪れている{再訪}といった特性と、〈著名〉のうちモダニズム以降の現代建築作品²⁾をあわせて示している。〈著名〉は西欧・日本に多く、西欧では《都市》が、日本では〈匿名〉がそれと同程度みられ、特に{幼少期}、{再訪}が顕著にみられた(11、17/29)。また、《都市》では日本とともにアフリカが西欧と同程度みられ、米大陸では〈著名〉が過半数を占め、特に現代建築作品が、アジアでは〈匿名〉が顕著に多くみられた。

2-2. 体験範囲 図1の分析例のように、資料には複数の空間にわたる体験を示すものが多くみられたため、シーンにおける体験空間の種類を参照空間として検討し、《建築》を含むか否か、さらに含む場合は《都市》、《自然》の有無を考慮して、〔建築のみ〕、〔建築+α〕、〔建築なし〕に分類した(表1)。〔建築のみ〕は〈著名〉を参照空間とするものが多く、現代建築作品が約半数程度みられた。〔建築

No.10 「住宅論 個と集合のための空間論」 直方体の森・同相の谷 / 篠原一男 SK 7202		2章 体験範囲と描写形式		
<p>シーン① 奈良井の集落</p> <p>① 木曾の奈良井駅に着いたときは、もう夜であった。…②山のなかの小さな駅から少し離れた奈良井の集落に向かった私は歩きた。…③突然目の前に高く真っ黒な民家の側面が浮かび上がった…④山のなかの道は自然が残っていた。それに、民家は直線上にそろって立ってはいないから、間のなかを歩くと私の前方には、民家の側面が近づきと入りして、驚くような黒の空間が展開していった。何分間であつたらうか、私は予期しなかった感情の高ぶりに襲われていた。⑤翌朝美しく晴れた山の空気のために、私はゆるやかに蛇行して遥かに続いている木曾の民家集落をはじめてみた。それは期待していたような魅力的な陰影をたたえていた。残っていた実測を午前中に終え、私たちはつぎの集落、郷原に向かった。</p>	<p>2-1 体験空間と参照空間</p> <p>参照体験 〔奈良井の集落〕 種類: 〈都市〉 地域: 日本 特性: なし 体験空間 駅: 〈匿名〉 山: 〈匿名〉 民家: 〈匿名〉</p>	<p>2-2 体験範囲</p> <p>〔建築+α〕</p>	<p>2-3 描写形式</p> <p>場面: 4つ 移動: 含む 含む〔混合型〕</p>	
<p>シーン② 郷原の集落</p> <p>① 大きな民家がゆったりと間隔をおいて、濃い緑のなかに立ち並んでいる木曾路から善光寺に向かって岐れて行く旧街道沿いの郷原の集落は、奈良井とはまったく異なった風景であった。② つぎつぎと寄りそうようにして軒を並べていた…ときには棟の上に雀おどしを置いた本棟造りと呼ばれる巨大な民家も点在していて、間口が10間余もある建築家好みの正面も珍しくない。…③ 押しつけてくるような真夏の夕方の太陽が、ひとつひとつの立派な民家の硬い輪郭を濃い緑のなかに浮かびあがらせていた。素朴で力強い民家集落の光景がそこにあった。④ 夜、私たちはそろって街道に出た…私たちの足音と声だけが動いていた。…⑤ 透き通ったような夏の夜の空がこの古い街道と集落の上に高くかかっている、その下に、ひとつひとつの民家がまるで巨大な生きものが息をひそませてうずくまった真黒な影のように立っていた。</p>	<p>参照体験 〔郷原の集落〕 種類: 〈都市〉 地域: 日本 特性: なし 体験空間 民家: 〈匿名〉 街道: 〈都市〉</p>	<p>〔建築+α〕</p>	<p>場面: 5つ 移動: 含む 含む〔混合型〕</p>	
<p>参照意図…間のなかで私と黒の空間との対話がはじまった。ふと、激情ともいえる意識の流れが私のなかを走っていった。…あのかつての夏の夜、古い街道に現象した黒い空間のなかで私を襲った激情をひとつの住宅の内部に表現出来たと思ったら、私はそれに全力を賭けよう。人間と空間との間に、新しい緊張関係をつくりだす手がかりになるとそれが予感されたなら、その高揚した生の実感を空間のなかにもちこんでよいのだと思っている。</p>		<p>3章 参照意図の意味内容 (空間の性質)</p> <p>4章 参照意図の意味内容 10.1 奈良井の集落 10.2 郷原の集落</p>		

図1. 分析例

+α)において《都市》を含む場合、《建築》が〈匿名〉の場合が過半数を占め(39/62)、なかでも{幼少期}や{再訪}を持つものが比較的多くみられた。

2-3. 描写形式 図1の分析例における奈良井の集落のシーンでは、奈良井駅から集落に向かって歩き出した描写と、民家の側面が突然見える描写が分節して描かれていることが読み取れる。そこで、シーンの中で連続した視覚体験として記述される描写の部分を場面と捉えた。場面には移動を伴うシークエンシャルな体験が描かれることがあり、そのような描写における移動の有無と場面の数によって、シーンごとの空間体験描写の形式(以下、描写形式)を検討した。一つの場面を一つの視点で描写する[単発型]、複数の場面を断片的に描写する[羅列型]、一つの場面を移動を伴ってひとつながりの体験として描写する[連続型]、移動を伴う場面を含む複数の場面を描写する[混合型]を位置付けた(図3)。

2-4. 空間体験描写のパターン 体験範囲と描写形式の関係を検討したところ(図4)、[単発型]は、民衆文化伝承館の内部における螺旋階段のある場面のみを描写しているNo.111のように、体験範囲を〔建築のみ〕とするものが多くみられ、参照空間が〈著名〉のものが過半数を占めた。一方[羅列型]では、セツクの修道院を俯瞰、外観、内観など様々な場面によって周辺環境とともに描写しているNo.49のように、〔建築+α〕が比較的多くみられた。移動の描写がある[連続型]と[混合型]はどちらも〔建築+α〕が過半数を占め、とくに[混合型]には、ストックホルム市庁舎を海辺の広場から内部広間までの連続的な描写の場面と、広間の内観を詳述する場面によって描写するNo.1のように、《建築》とともに《都市》が描かれるものが多くみられた。

3. 参照意図の意味内容 資料とした言説から、建築家が空間体験からどのような事柄を設計に参照したかを参照意図として抽出し、その意味内容をKJ法³⁾を用いて相互に比較、検討することで関係図を作成した。その結果、【空間の性質】、【空間の仕組】、【空間における行為】、【文化・社会的背景】(以下、【性質】、【仕組】、【行為】、【社会】)に大別できた(図5)。【性質】は、空間の美しさや迫力など、空間に感じた印象や性質に着目するものであり、例えば図1の分析例では、夜の集落に感じた闇の空間が生む緊張感が捉えられている。【仕組】は、内部と外部、部分と全体の関係といった空間構成に着目したものであり、No.91ではラ・トゥーレット修道院において、自分の居場所がわからなくなるような複雑な内部空間の構成と全体のボリューム感を対比する、部分と全体の関係を読み取れる。【行為】は、人の

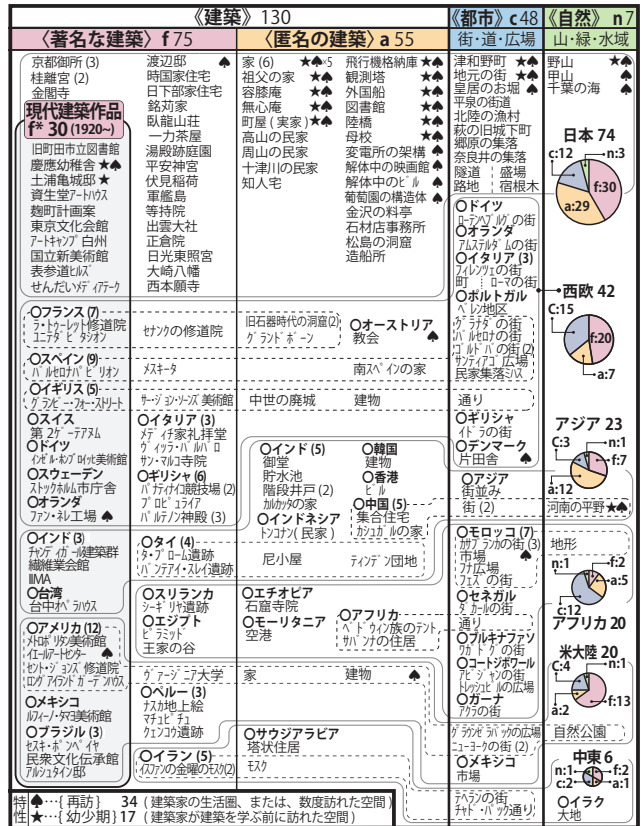


図2. 参照空間の種類と地域

表1. 体験範囲

凡例	参照空間	資料数	幼少期	再訪	《建築》	《著名》	《匿名》	《都市》	《自然》
●	参照空間	185	17	34	f	f	c	n	
○	体験空間				f	f	c	n	
《建築のみ》	《著名》	21	1	1	●	●	●	●	●
	《匿名》	25			○	○	○	○	○
《建築》+《都市》	《著名》	3			●	●	●	●	●
	《匿名》	25	3	7	○	○	○	○	○
《建築》+α	《著名》	3			●	●	●	●	●
	《匿名》	1	1	1	○	○	○	○	○
	《著名》+《都市》	6			●	●	●	●	●
	《匿名》+《都市》	1			○	○	○	○	○
	《著名》+《自然》	3			●	●	●	●	●
	《匿名》+《自然》	1			○	○	○	○	○
	複合	4	2	3	●	●	●	●	●
	《著名》+《自然》	1	1	1	○	○	○	○	○
	《著名》+《都市》	1			●	●	●	●	●
	《匿名》+《都市》	2			○	○	○	○	○
《建築》なし	《著名》	3	1	1	○	○	○	○	○
	《匿名》	7	1	1	○	○	○	○	○
	《著名》+《都市》	2			○	○	○	○	○
《都市》+《自然》	《著名》	1			○	○	○	○	○
	《匿名》	12	1	1	○	○	○	○	○
	《著名》+《自然》	1			○	○	○	○	○
《都市》+《自然》	《著名》	14			○	○	○	○	○
	《匿名》	6			○	○	○	○	○
	《著名》+《自然》	5	1	3	○	○	○	○	○

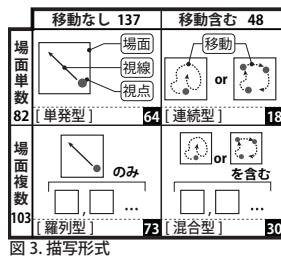


図3. 描写形式

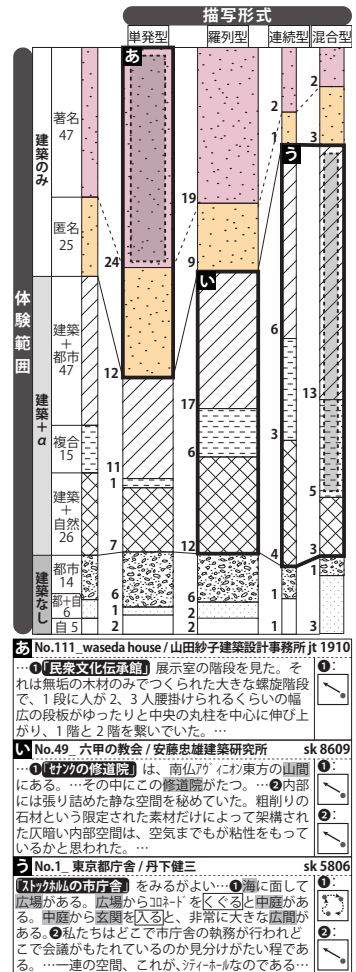


図4. 体験範囲と描写形式

行為を生む空間のあり方やその使われ方に着目したものであり、No.112のように、東京文化会館における外構のわずかに湾曲した部分によって誘発される子供たちの遊びを参照するものである。【社会】は、空間を成立させる風土や社会的文脈などに着目したものであり、No.106ではカンテアゴ広場におけるペラ公演の無償放映を成立させる寛大さといった文化的側面が捉えられている。

4. 参照としての空間体験描写 2章で検討した空間体験の描写形式を縦軸に、3章で検討した参照内容の意味内容を横軸として対応関係を整理し、体験範囲の内訳をあわせて示したものが図6である⁴⁾。

参照意図の意味内容ごとに描写形式の傾向を検討したところ、【性質】では[単発型]と[羅列型]、【仕組】では移動を伴う[連続型]と[混合型]、【行為】では[羅列型]、【社会】では[単発型]がそれぞれ多くみられた。以降では描写形式ごとに比較検討を行う。

まず[単発型]において、【性質】では体験範囲で〔建築のみ〕が約7割を占め、参照空間をみると〔匿名〕が多く(6/9)、一方で【社会】は体験範囲を問わずみられた。ここから、象徴的な1つの光景として描写される空間体験では、例えばNo.93で、造船所で見た薄い鉄板の構造体を感じた、大雑把ではあるが魅力的な印象のように、街場の建物や、日常的に接するありふれた建築に見出した素朴さや生々しさなどの印象や性質に触発され、その光景を自身の作品で再現しようとする建築家の思考と、No.67におけるウーソの教会の雰囲気から、社会を構成する文化としての宗教のあり方に着目するもののように、建築から都市空間まで様々な空間において目に焼き付いた光景から、それをつくり出す社会・文化的背景に着目する建築家の思考が典型として捉えられる。

[羅列型]において、【性質】では体験範囲についてみると〔建築+α〕が、参照空間では〔著名〕が多い(21/33)一方で、【行為】では体験範囲に偏りがみられなかった。これより、空間の印象に残った光景が様々な視点から描写された空間体験には、例えばNo.81において、マルセル・ブローヤ設計のセント・ジョンズ修道院と周辺の自然環境との関係からブローヤの精神性を感じ取るように、著名な建築作品や遺跡などを、建築家が実体験によって、予め知っていたことと異なる新たな発見をすることで、その体験を様々な視点の情景として省察し、設計に応用しようとする思考が表れている。また、No.30-1における繊維業者会館において、スロープを下るために使用することが多いことを発見し、斜面によって引き

起こされる人の行為を参照するように、その空間における思いよらない人の振舞いや、空間が引き起こす人への影響力について複数の視点から分析的に捉える思考といった、特徴的な傾向を読み取れる。

また、移動を伴う描写形式である[連続型]と[混合型]では、【性質】、【仕組】が多く(11,15/34)、特に【仕組】を参照意図とするものは、体験範囲に〔建築+α〕が比較的多いことから、建築と周辺環境を横断する動的な体験が記憶に残り、シークエンシャルな体験を建築空間の内外関係や建築的操作について考察するものといえる。例えばNo.76では、渡辺邸における、街道から玄関をくぐり巨大な土間が現れる連続的な体験から、そのような空間を生む内部の空間構成や外部との接続形式を思考している。

これまでに述べた傾向を踏まえて、参照意図の意味内容による傾向の違いに着目すると、【性質】でみられる、平凡な建築の象徴的な一つの光景をもとに、有名な建築作品を様々な視点から、その空間の印象をつくる現象的側面に着目し、それを自身の作品に応用しようとする思考を基軸として、【仕組】ではその原因となる要因を空間のなかに見出すため、建築のみならず、その周辺環境と総合的に評価する中で、移動を伴う描写が多くなる一方、【行為】では人々と空間の関係を多様な場面から捕捉して、【社会】では体験した空間のスケールによらず、一つの視点から、その空間を決定づける要因を人間や社会に求めるといふ、実体験と創作をめぐる建築家の典型的な思考を捉えた。つまり、【性質】と【仕組】は空間の物質的側面、【行為】と【社会】は空間を成立させる背景としての社会・環境的側面に着目するものといえる。

5. 結 以上、建築家の設計論に参照される空間体験描写を資料に、体験した空間の種類や関係、描写形式を整理し、参照した内容とあわせて検討した。その結果、実体験から得た印象やその要因を空間の物質的側面に見出そうとするものと、そこからさらに環境的側面まで考慮する建築家の思考を捉えた。このように、実体験をもとに空間を分析的に捉え、その様々な側面に思考を巡らせること自体が建築家の創造的な活動であるといえる。

註

1) ここでは、現代日本の建築ジャーナリズムの中から最も代表的なものとして「新建築」を中心に掲載された作品の設計論を資料としている。戦後から2023年までに発表された「設計論」のうち、目次にタイトルが掲載されたものを原則とし、敷地・自作を除く、ある特定の空間の体験に関する描写がみられ、そこから参照した内容が明確に読み取れる112の論文から合計120の参照内容、185の体験空間を抽出している。

2) ここでは、モダニズムが流行し始めた1920年以降に竣工した建築とする。

3) 川喜田二郎『発想法』(中央公論社、1967)内でのKJ法を用いている。

4) 1つの参照意図につき複数のシーンを持つものはそれぞれのシーンの持つ体験範囲の最大範囲をその体験範囲と捉える。また描写形式については移動がないものは[羅列型]、1場面でも移動を含むものは[混合型]として捉え、それぞれのモデル図を作成した。

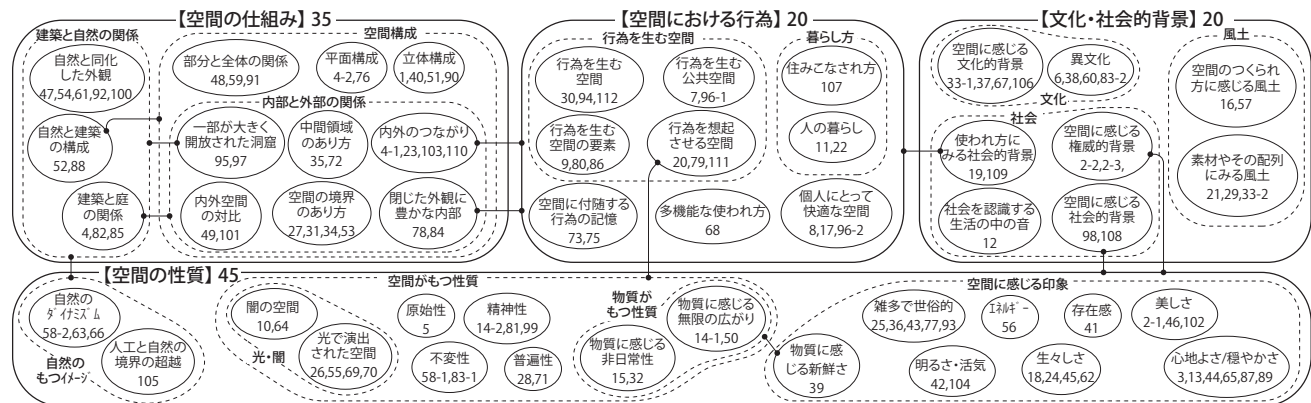


図 5. 参照意図の意味内容

参照意図の意味内容

I 【空間の性質】 45	II 【空間の仕組み】 35	III 【空間における行為】 20	IV 【社会・文化的背景】 20
<p>【単発型】</p> <p>39 養生堂ア-ハウス 105 台中ア-ハウス 46 子家礼拝堂 3 家(自宅) 24 石窟寺院 56 変電所の架構 71 カブツの建物 93 造船所 32 解体中の映画館 63 コ-3の街 69 甲山 63 千葉の海</p> <p>【連続型】</p> <p>42 旧町田市立図書館 62.1 等持院 62.2 大崎八幡 62.3 日光東照宮 14-2.1 アトリエイフ 14-2.2 京都御所 2-1.1 金閣寺 2-1.2 京都御所 45.1 サマシの寺院 45.2 第2ア-ハウス 102.1 車籠島 102.2 ア-ハウス遺跡 102.3 ア-ハウス遺跡 102.4 湯殿跡庭園 102.5 シキリ遺跡 44 飛行機格納庫 87 丸の尼小屋 64.1 水沢の料亭 64.2 西本願寺 14-1.1 昇天 14-1.2 昇天 13 慶應幼稚舎 28 家 15.1 解体中のビル 15.2 隧道 89 日本の家 104 伴リウの建物 50 王家の谷 81 佐々木 修道院 83-1 信州の奥家 41 中国の街 58-1 ア-広場 66 皇居の堀</p> <p>【混合型】</p> <p>36 東京の盛場 55 イトの階段井戸 43 葡萄園の構造体 58-2 印子の地形</p> <p>5 松島の洞窟 65 イトの御堂 99 京都御所 10.1 奈良井の集落 10.2 郷原の集落 18.1 平安神宮 18.2 一カ茶屋 18.3 伏見稲荷 18.4 周山の民家 25.1 モーランドの空港 25.2 カ-ルの街 25.3 カドグの街 25.4 ア-シャの街 25.5 ア-シャの街 25.6 ア-シャの街 25.7 ア-シャの住居 25.8 トクシロの広場</p>	<p>40 在-ルビカ 85 丸ノノ-カ美術館 97 旧石炭時代の洞窟 90 千葉の旧自宅 103 知人宅 47 アカ礼工場 100 銘切家 110 ヘドウ族の村 88 イトの貯水池</p> <p>82 ア-ハウス大学 23 奈良の祖父の家 92 丸ノノ-カ美術館 54 中世の廃城 95 旧石炭時代の洞窟 49 佐ノ川の修道院 51.1 ヒラミツ 51.2 パルノ神殿 51.3 桂離宮 51.4 エドワヅタツ 51.5 ア-ハウス建築群 52 グラハ-ル 74 ア-シャの街 31 コ-3の街</p> <p>34 韓国の建物 91 ア-ハウス修道院 1 ストックホルム市庁舎 72 ア-シャの街並み 101 日本の野山</p> <p>48.1 土浦城郭跡 48.2 港の外国船 72 麹町計画案 4-2.2 桂離宮 84.1 香港のビル 84.2 トクシロ美術館 78.1 アカの家 78.2 南ア-カの家 27 渡辺邸 76 東京の家 61 トコノ(民家) 53 ロ-マのア-シャの街 35.1 愛知の路地 35.2 容膝庵 35.3 無心庵 35.4 臥龍山荘</p> <p>4-1.1 ア-ハウスア-ハウス 4-1.2 ア-ハウスア-ハウス 4-1.3 京都の町屋(実家) 4-1.4 ア-ハウスア-ハウス 4-1.5 留園の街 4-1.6 ア-ハウスア-ハウス 51.1 ア-シャの街 51.2 ア-シャの街</p>	<p>112 東京文化会館 111 民衆文化伝承館 8 ア-ハウスア-ハウス</p> <p>107 ア-ハウス団地 75 母校 30 織維業会館 30.2 グラハ-ル 96-1 国立新美術館 96-2 表参道ビル 73 大阪の陸橋 96-2.1 パルノ神殿 96-2.2 ア-ハウス 96-2.3 ア-ハウス 80 長野の図書館 17.1 ア-ハウス美術館 17.2 ア-ハウス 20 高山の民家 68 ア-ハウス 白州 79 自然公園 11 津和野町 9 河南の平野</p> <p>86 観測塔 94 せんだいア-ハウス 7.1 ア-ハウス 7.2 ア-ハウス 22.1 ア-ハウス 22.2 ア-ハウス 22.3 平泉の街道 22.4 秋の旧城下町 22.5 ア-ハウスア-ハウス 22.6 ア-ハウス 22.7 ア-ハウス 22.8 民衆集落 22.9 ア-ハウス 22.10 ア-ハウス 22.11 ア-ハウス 22.12 北陸の漁村 22.13 ア-ハウス</p>	<p>29 ア-ハウス金曜の夜 16 IMA 33-2 ア-ハウス金曜の夜 108 集合住宅 12 地元の街 19 デュカンの片田舎 67 グラハ-ル 83-2 塔状住居 98 ア-ハウス 106 ア-ハウス 広場</p> <p>6 パルノ神殿 37 ミナリウの家 21.1 石村店事務所 21.2 加ガタの家 2-2.1 出雲大社 2-2.2 正倉院 109 グラハ-ル 57 宿根木 38 ア-ハウス 33-1 ア-ハウス 60.1 アカ地上絵 60.2 ア-ハウス 60.3 ア-ハウス 2-3.1 津津川の民家 2-3.2 日下部家住宅 2-3.3 時国家住宅</p>

全資料における割合

単発型: 1
連続型: 1
混合型: 1

凡例

X-Y-Z: ストックホルム市庁舎
資料番号
参照空間名
参照空間の種類
参照空間の特性
参照空間の形式
参照空間の内容
参照空間の身体感覚
参照空間の形式
参照空間の形式
参照空間の形式
参照空間の形式

—: 単発型
—: 連続型
—: 連続型
—: 連続型
—: 混合型

【No.93 造船所の構造体】 sk0610
「せま/カク建築」/ヨシノ マト
①造船所で見た鉄の構造体が忘れられない。家の足を思わせるようなかつしりとした支柱のびり開いたり、椅子にぶつかったまま、時間の上に乗せられた巨大タンカーの船体の一部である。…銅板も紙のようにペナペナである。…なぜかそのいい加減さにとても惹かれた。…
場面①

【No.67 グラハ-ルの教会】 sk9311
「ア-ハウスア-ハウスの形成」/青島裕之
①ふと入った教会で、パイプがパイプの演奏をのんびり開いたり、椅子にぶつかったまま、時間の上に乗せられた巨大タンカーの船体の一部である。…銅板も紙のようにペナペナである。…なぜかそのいい加減さにとても惹かれた。…
場面①

【No.81 セト・ジョンズ 修道院】 sk9912
「建築のタリムス」/高垣建次郎
①霧がようやく流れ出したサガタガンのほとりの森を横切るように、朝の祈りの時を告げる鐘の音がこだましていた。…静寂な自然に抱かれた、祈りと労働の生活の一端を垣間見ることに。…人びとの心のよりどころに会えたような気がした。…
②「タイムレスネス」という言葉にたがわぬ、優れたプロポーションと精緻なディテールによる空間が時を超えた感動を与えてくれた。…
場面①

【No.30 織維業会館】 sk7907
「斜面の意味」/菊竹清訓
①正面アプローチにつけられたスロープ…ついでに観察すると、不思議なことに、この斜路を登って行く人はまったく見当らず、みんな下りてくるばかりだ。…
②自動車で行くと、どうしても1階の入口まで行ってしまふ、斜路の登り口で止まるというには結局ならないのである。…作者の当初の意図とは大きなギャップが見られる。…
場面①

【No.76 渡辺邸】 j9801
「創作論カクカ」/奥山信一
①民家の空間と…貴族的空間とが、南北に走る一本の直線によって明快に分割され、かつ並立した形式に興味を集中していた。…
②渡辺邸には門構えがない。…玄関扉をくぐる時、巨大な土間空間が、街道と直角にまつすぐ裏手まで建物を貫いている。…空間のかたちと…無限定空間の性格が、渡辺邸の土間空間の不思議な魅力を形成している。…
場面①

図 6. 描写形式と参照意図の意味内容